

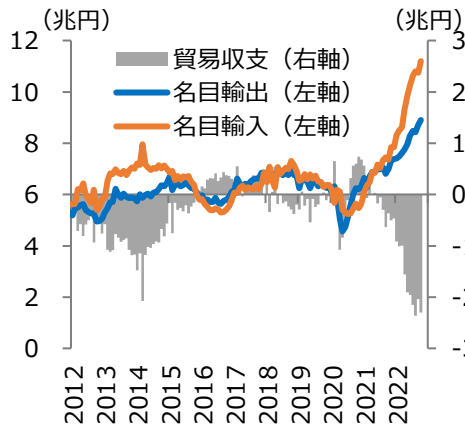
## 日本

## 貿易統計 (2022年10月)

## 大幅貿易赤字継続、海外経済減速から輸出減の兆し

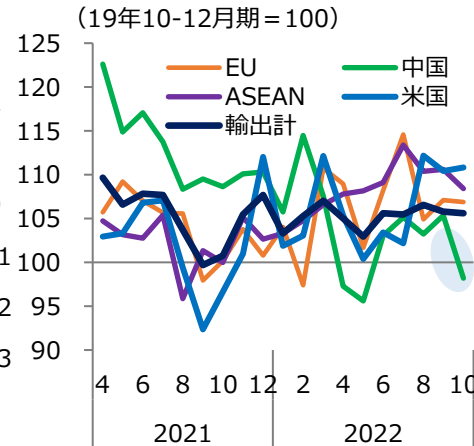
政策・経済センター  
堂本健太  
03-6858-2717

## 1 名目輸出入・貿易収支



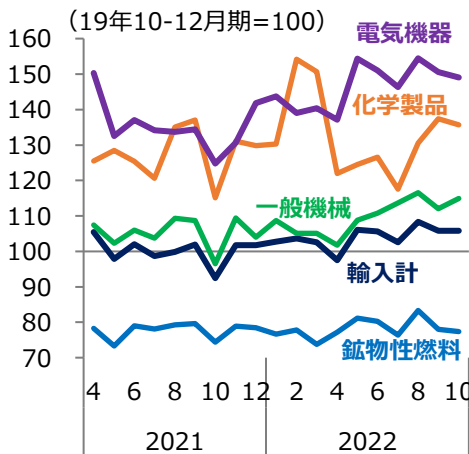
注：季節調整値。  
出所：財務省「貿易統計」

## 2 実質輸出：地域別



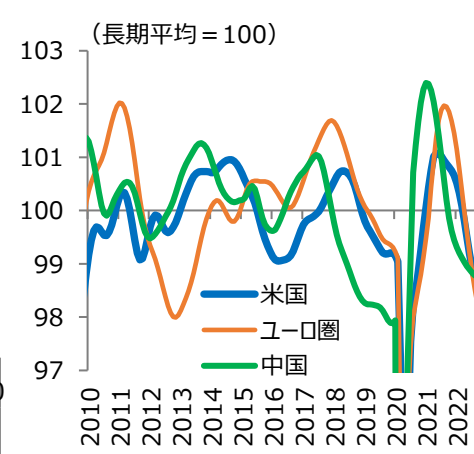
注：当社による実質・季節調整値。  
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より  
三菱総合研究所作成

## 3 実質輸入：財別



注：当社による実質・季節調整値。  
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より  
三菱総合研究所作成

## 4 OECD景気先行指数



出所：OECD

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 22年10月の貿易収支 (季調値) は▲2兆2,992億円と17カ月連続の赤字となった (図表1)。円安進行から名目輸入額の伸びが大きく、大幅な貿易赤字が続いている。
- 価格・為替変動の影響を除いた10月の実質輸出 (当社試算、季調値) は、7-9月期対比▲0.3%と弱めの動きとなった (図表2)。地域別にみると、中国向けが大幅に減少し全体を下押しした。ゼロコロナ政策が続くなか、消費・投資の減速が影響したとみられる。一方、米国向け・EU向けは、景気減速感が強まるなかでも底堅く推移している。
- 10月の実質輸入 (当社試算、季調値) は、7-9月期対比+0.2%と緩やかに増加した (図表3)。財別にみると、22年半ば以降は一般機械の増加傾向が鮮明だ。国内設備投資の持ち直しを反映しているとみられる。化学製品も大幅に増加しているが、新型コロナワクチン輸入の影響が大きいとみられ、振れの大きい動きが続くだろう。

## 基調判断と今後の流れ

- 円安による名目輸入額の増加から、貿易収支は大幅赤字が続いている。11月に入り為替レートは対ドルで140円台半ばから一時130円台後半となるなど変動が大きいが、23年入り後は米国経済減速・FRBの利上げ打ち止め観測から円安傾向には歯止めがかかるとみられる。もっとも、輸出は先行き減少が見込まれ、貿易赤字の縮小は緩やかにとどまるだろう。
- 実質ベースの輸出は先行き減少する見込みだ。米国では金融引き締めの影響が徐々に実体経済に表れており、欧州ではエネルギー制約による景気の下押しが冬に本格化するとみられる。景気に6~9カ月先行するとされるOECD景気先行指数は米国・ユーロ圏とも急低下している (図表4)。中国経済も、ゼロコロナ政策が堅持されている間は緩やかな回復にとどまるとみられる。輸出の下押しは22年10-12月期から23年1-3月期にかけて強まるだろう。